

共

生

黒木隆之 書

第 7 号

平成 25 年 4 月 1 日発行

発行人兼編集人 伊東安男

鹿児島県社会福祉施設経営者協議会
【事務局】

〒890-8517 鹿児島市鴨池新町 1-7

県社会福祉センター内

TEL099-257-9885 FAX 099-250-9358

平成 24 年度の経営協事業を振り返って

鹿児島県社会福祉施設経営者協議会 会長 伊東安男

平成 24 年度も終わり、25 年度を迎えた。

まず、平成 24 年度において特筆すべきニュースはやはり政権交代だろう。3 年余り続いた民主党政権から再び自公政権に代わったのであるが、内紛を繰り返しマニフェストも履行されない状況に国民の怒りが爆発したような選挙結果であった。

この政権交代が、はたして福祉の世界にどのような影響をもたらすのであろうか？「社会保障と税の一体改革」が 3 党合意で了承されたとはいえ、具体的な中身はほとんど決まっていない。新政権で内容が議論されるわけであるが、急増する高齢化の様々なニーズにどのように応えるのか、待機児童がますます増える中で抜本的な対応が図れるのか。また、障害者総合福祉法において、障害者の地域移行と就労のニーズにどう対応できるのか？ 全体的な課題としては、福祉施設が共通課題として抱える人材確保をどう解決していただけるのか、課題山積である。

ところで、本県経営協は間もなく結成 30 年を迎える。2 年前の 3・11 東日本大震災への支援策を中心に様々な事業を展開しているが、支援についていえば、一昨年宮城県に続き福島県への応援派遣も 11 月に行う予定である。

県経営協の喫緊の課題は、組織拡大と財政基盤の強化である。そのため、先の 2 月には初めて奄美大島での「経営協セミナー」を開催した。種別の分科会も実施したこともあって、90 名に及ぶ参加者に喜んでもらったのではないと思う。機関紙「共生」も軌道に乗り定期的に発行しているが、これは事務局の頑張りに負うところが大きい。財政強化については、平成 26 年度から県の会費をお願いしたいと考えている。そうでなければ事業の拡大もできない。この点は、ぜひとも会員の皆様のご理解とご協力をいただきたい。

最後に、全国経営協が、従来の「社会福祉施設経営者協議会」から「社会福祉法人経営者協議会」に名称を変えたことに伴い、本県も追随して変更する予定です。

平成 25 年度においても、経営協は一層の飛躍を図る所存ですので、これまで同様よろしくお祈りします。

就任のごあいさつ

このたび、4 月 1 日付けで県経営協事務局長を担当させていただくことになりました。

「福祉」に対する県民の皆さんの思いは、日進月歩、さらにはニーズも多様化してきている難しい情勢の中、先輩諸氏が築いてこられたレールを踏み外すことがないよう、さらにお知恵をお借りしながら、微力ではありますが頑張っておりますので、御指導御鞭撻の程よろしくお祈りいたします。

県経営協 事務局長 徳永 修

本会主催の「スピーチコンテスト」に600名を超える来場者!!!

県社協、県民児協と共同開催、第1回目として大成功

去る2月27日に、県民交流センターで「第1回 福祉の現場から私たちの提言」“こころ豊かな鹿児島をめざして”と題するスピーチコンテストを開催しました。

これは、福祉の現場や地域で日夜活躍されている方々から、喜び、やりがい等を広く県民へ発信することにより、福祉の現場をより一層ご理解いただき、今後ともこころ豊かな鹿児島づくりのために共に考え共に行動できることを目標として、今回、初めて実施しました。

具体的には、福祉に直接関係している方々から、それぞれの意見・提言をスピーチしてもらうことにより広く県民にも訴えようというもので、社会福祉施設役職員（サービス利用者を含む）、民生委員児童委員、社会福祉協議会役職員を対象に作文の形で募集し、選考された10名による会場での発表を受けて最終審査、県知事賞以下の各賞が授与されました。

なお、県知事賞は、障害者支援施設ふるさと学園職員の鳥越真由美さんの「あの頃の私に伝えたい」と題する作品に知事（代理）から、我が経営協会会長賞は、障害者就労支援センターに通っている田野尻大平さんに伊東会長から、それぞれ授与されました。その他、県議会議長賞、県社協会会長賞、県民児協会会長賞、優秀賞（県社協会会長、5名）が8名に授与されました。

引き続き今年度も共催として実施する計画ですので、会員、非会員を問わない施設関係者、施設入所・利用者の皆さん多数の応募と当日のご来場をお願いします。



鹿児島市内でも開催

「第3回社会福祉施設経営者セミナー」報告

わが国の社会・経済における最重要課題として景気・雇用対策の他、社会保障・社会福祉の充実が挙げられますが、消費税法成立に伴って今後の進展が期待されます。このように、経営環境が様々に変化しつつあるなか、社会福祉法人は、福祉サービス供給の中核の担い手としての存在意義を発揮して社会福祉の向上に寄与し、社会的な使命を果たしていかなければならないことになりありません。今後とも、健全かつ安定的な経営を確保しながら、人材育成を進め質の高い福祉サービスの提供及び福祉を目的とする事業実施により地域福祉の向上に貢献することが求められます。

いかなる状況にも適時的確に対応するため、経営者、管理者はもとより、施設運営の中核を担う職員にも要求されるところの法人をめぐる情勢、取り組み、危機管理、人材育成並びに各専門分野に関する講演を鹿児島市と奄美市（別稿）において実施しました。鹿児島市における講演内容は以下のとおりで、①最もホットな国の福祉施策や情勢の解説、②法人・施設があらゆる危機に直面した際の対応、③職員育成に直結できる生徒指導の手腕、に106名が熱心に聴講しました。

☆平成25年1月29日（火）サンロイヤルホテル

- ①「社会福祉法人をめぐる情勢と全国経営協の取り組み」
全国社会福祉施設経営者協議会 会長 高岡 國士氏
- ②「社会福祉法人の危機管理」
株式会社アイギス 代表取締役 脇 貴志氏
- ③「波乱万丈・・・そして甲子園」
学校法人 神村学園 高等部
男子硬式野球部監督 山本 常夫氏



「東日本大震災被災施設への応援」具体的な要領決まる！！

九州ブロック経営協は南相馬市「特別養護老人ホーム」へ交替で2人ずつ

震災が元で勤務職員が極端に不足している被災施設に対し、全国経営協が音頭をとり会員救済のため応援派遣を続けています。九州の中でもそれぞれの県・法人が独自に派遣していますが、平成25年度から各県で計画的、継続して派遣することが決まりました。

九ブへの割り当ては、南相馬市「伸生福社会（特養）長寿荘」への継続応援となっています。各県が一月ずつ交替で引き継ぎこととされ、本県は現段階で11月を受け持ちます。改めて依頼申し上げることとなりますが、日程的、経費的な取り決めは以下のようにになりました。

ア 先方（福島県社協）の負担

- ① 派遣に伴う旅費（飛行機代等）② 現地での居住費（宿舍の家賃）③ 光熱水費、生活に必要な家電・寝具・消耗品等 ④ 現地での通勤に要する費用（レンタカーのガソリン代等）⑤ 日当（応援施設の旅費規程によるもの）

イ 当方（応援施設）の負担

- ① 職員は出張扱いとなるので、職員の人件費（各種手当を含む）、社会保険、労働保険。

【その他参考事項】 基本的に日勤。宿舍は施設から2km（玄関一つ、2部屋・鍵付）。レンタカー借り上げ済み。

【基本派遣日程】 移動日（宿舍入り、引継等）→実働13日→最終日（福島泊）→福島から帰鹿

※1、2名ずつ2交替を予定しているが、状況によりそれぞれ短縮して3交替とする可能性もある。

2、冬季派遣回避の調整の影響で、派遣月が動く可能性もある。

1 昨年も協力いただいたところですが、さらに全会員のご検討、ご協力をお願いします。

昨年度の1.5倍！！25年度は最終年、さらに上積みを！！

平成24年度「特別年会費」募集実績

全国経営協では、課題が山積し数年にわたる継続した支援を必要とする被災地の会員法人経営を支援するため、また、今後の大規模災害への備えにも取り組むために、全国の会員に対し「特別年会費」の協力を3年継続で呼びかけています。これを受けて、本県においても、会員の皆様に昨年同様24年度分としてのお願いをいたしました。結果、下記のとおり協力いただいたので報告します。

当初の計画により、25年度まで継続してのお願いとなります。改めて会員の皆様にお願い申し上げることになりますので、その際は一口以上の協力を是非ともお願いします。

★平成24年度目標額	本県310万円（全国1億円のうち）
実績額	138万円（50法人＝23.4%）
★平成23年度実績額	全国37百万円
	本県 81万円

『1会員は全ての会員のために、全ての会員は1会員のために』



離島地域で初の試み、盛会裏に終了！！

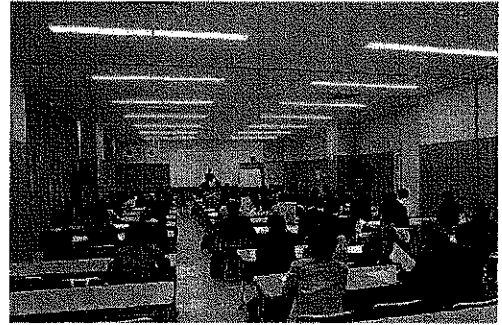
「第1回経営協セミナー！N奄美」を開催

本会主催の「経営者セミナー」については、毎年度2回から3回、鹿児島市内で開催していますが、特に、離島地域の法人・施設からの出席は、日程的、経費的に大きな負担となっています。そこで、県経営協初めての試みでしたが、講師共々こちらから出向きまして奄美市でも実施することとしたものです。

講師の都合もあって日曜日の開催でしたが、地元の力強い協力者の呼びかけを得まして、昼食を挟んでの長丁場にもかかわらず鹿児島開催にも迫る85人の参加がありました。

県経営協会長の基調講演に続き、県保健福祉部長、日本女子体育大学准教授（保育学）、全国経営協介護保険事業運営委員会委員長（こうほう苑理事長）、全国経営協障害者施設経営委員会委員（常盤会理事長）という、行政から各専門分野にわたる講師陣としました。進行は、午前中に「全体会」、午後から「高齢者」「障害者」「保育」の専門講師ごとに3分科会に別れ、各分野をホットに掘り下げましたが、質問を交えながら熱心に聴き入る姿が印象的でした。

離島地区での今後については、予算面における制約があることからいつでもというわけにはいきませんが、何か工夫して実施していけたらと考えています。



指導監査について県に提言

県、関係県議、本会で構成する指導監査に関する懇談会実施

2月7日、県庁会議室において「社会福祉法人・施設の指導監査に関する有識者による懇談会」が開かれました。

これは、県の指導監査の円滑な推進に資するための意見交換を目的とするもので、関係者からの意見、提言を求めるものです。会は、県から保健福祉部長・関係課長等、提言側として2名の関係県議及び県経営協正副会長が出席して開かれました。

経営協では、あらかじめ、会員から県の指導監査に関する意見・要望をアンケートの形で集約、法人・施設から提出があった22件を整理した上で県当局に要望しました。主な項目は以下のとおりですが、それぞれについて、県の対応状況や、今後、検討したいなどの説明がありました。

◇局又は監査員による指摘の判断、程度の違いが見受けられるので統一を◇良い点は良いと評価するような監査を要望◇講評前の意見統一がないものがある◇市への権限移譲にあっては県もさらなる配慮を etc

受検側としては「監査」より「指導」に力点を置いたものが望ましいところであり、いわゆる「指摘」事項が限りなく少なくなるよう改善努力に心掛けましょう。

「経営協」に加入しましょう！！

我ら社会福祉法人が果たしている役割を広くアピールしながら、身近な社会福祉増進にさらに貢献できるよう、全国経営協に結集して会員の充実・強化に向けた政策提言を進めていきます。

・・・「協議会」が何をしてくれるか、「協議会」のために何ができるか・・・

加入申込は県経営協事務局まで [Tel 099-257-9885]

「スピーチコンテスト」アンケートからピックアップ

約600名の入場者があり484名の方からアンケート提出がありました。その中から、施設に関するものを紙面の範囲で転記しましたので参考にしてください。

- ・現場の声の重みは何ものにも代え難いと思いました。老若男女の声に、主催者の気配りを感じた。
- ・見守りはお互いの信頼を得るまでの苦労。それを越えた時、本物になるとしみじみ感じた。相手をよく知ることが大切、そして連携。一生懸命努力されていることに感動した。
- ・私も普段、福祉の仕事に携わっておりますが、今年で丸9年となり、毎日の業務をこなすだけの事務的な仕事になっていたのではないかと感じさせられました。人とふれあう仕事、何が大切なのか、仕事をやりやすくするために働くのではないこと、気づかされるのがたくさんありました。皆さん、素晴らしいスピーチに心が洗われました。ありがとうございました。
- ・発表される方の日々の活動の大変さ、また施設で生活されている方への優しい言葉掛けなど、心打たれつつ聞くことでした。自分の活動に結びつけたいです。
- ・実際働いている方の体験談や考えは、医療福祉科の私たちにとって、とても参考になるものがあり、「そんな取り組み法もあるんだ」と勉強になりました。
- ・1人で全てするのではなく、みんなで協力をしていくことが大切。安心・安全・スピーディに仕事をしていくことが大切。
- ・発表の方々が体験した様々な苦労、悩み、それ以上に知り得た喜びを聴き、とても感動しました。また、発表者の生き生きした姿に揺るがない自信も。これからもしっかりと向き合い前進して行ってほしいです。
- ・今まで知らなかった施設職員の苦労を苦労と感じさせない話に、ただ頭の下がる想いでした。これからは少しでも地域の役に立つような何かできることを取り入れていこうと思うことでした。
- ・同じ職に就いている者として、体験談をたくさん聞いて共感する面があり、職に対しての悩みもあるがすごく勇気ややる気を持つことができました。
- ・福祉というそれぞれの現場で日夜心を砕き、何をどうすればよりよく過ごせるか、生活できるかと取り組んでいらっしゃる人たちの思いが伝わってきました。人と人とのつながり、お互いの信頼関係が一番必要な福祉の現場であり、また、人のつながりが希薄な世の中で一番それができているのが福祉の現場だと思います。
- ・現在、施設で利用者と一緒に指導し、共に人間味あふれる体験をさせていらっしゃるスピーチに感動し、これからも苦労が大なり小なりあると思いますが、あなたしか出来ない素晴らしい仕事、毎日が実りのある充実した達成感を感じると思います。これからも頑張ってくださいとエールをおくります。
- ・実際に現場で活躍されている人達の話が聴くことができよかったです。その現場だからこそ思うこと、自分自身が感じたことなど、たくさん話を聴けて良かった。自分はまだ、実際に現場に立っていないため、辛いことや苦労することを知らない。けど、今回の話を聴いて、自分が実際に現場に立ったら、自分のできることをしっかりとやっていきたいと思った。その人に合ったサービスや支援を見つけて行うことは大変だと思うけど、たくさん関わりを持って一つひとつ解決して行って、その人の役に立ちたいと思ったし、少しでも福祉に役立ちたいと思った。
- ・今日聞いたスピーチをこれからの支援に活かしていきたいといます。とても良い勉強になりました。
- ・10人それぞれに素晴らしい発表だった。福祉の現場で仕事をしている方々の大きな励みになるようなスピーチ大会だった。今回が第1回目。大成功でしたので、この大会がもっともっと大きなイベントになっていくことを期待します。



「さびかん」「さこうじゅう」を知って職を辞す

県経営協 前事務局長 前田二三夫

2年間お世話になりました。この3月31日をもって事務局長を退きました。

私の身分は県社協の非常勤職員であって、本来の職務は福祉施設などからの経営相談を受ける指導員という立場でしたが、ここを退職したために、兼務ともいうべき経営協事務局長も連動して辞することになった次第です。

法人運営・施設経営に関する相談は、年間150件程度あります。行政に身を置いた経歴はありましたが、「福祉」に関しては外から触れるだけで中に立ち入った経験はありませんでしたので、最初は質問の意味どころか言葉さえ分かりません。そんなわけで、最初の1年間は、簿記だ税務だ法律だなどと全くの手探りで勉強で、兼任指導員（公認会計士）をはじめ周囲の知識に大いに助けられました。2、3ヶ月目からは、調べる方法も習得でき周囲に大きな負担は掛けずに済むようにはなりました。福祉は幅が広く奥も深いこともあって、随分勉強させてもらい、既に高齢者の域ですが自分自身の生き方にも多少なりとも良い影響を受けています。

「経営協」業務は、伊東会長や他の役員の方の指導の下、大きな失策もなく私なりに全うできたと思っております。予算の関係でモノクロコピーではありますが、手づくり機関紙「共生」を発刊、定期発行としたことは（自画自賛ですが）功績かなと思っております。

ところで、標題の言葉は皆さんご承知でしょうが、会議等でこの言葉が目の前を行き交っても私には何のことやらでした。最近、若者を中心に何でも言葉を詰めますが、さすがにこれには…。小生にとっては、「サービス管理者」の要件は持ち合わせませんが「サービス付高齢者用住宅」にはそろそろ縁がありそうです。

福祉業界も先行き明るい要素だけではありません。規制緩和、少子高齢化の進行、税制見直しなど、直接屋台骨を揺らします。まずは、足下・足腰を鍛える所以です。

経営協の組織と会員の皆さまの発展を祈ります。

事務局便り

【前号発行後の経営協の取組み】

月 日	行事名	場 所	主な内容等
1月17日	会計研修	奄美振興会館	会計基準、決算事務、他
1月29日	経営者セミナー	サンロイヤルホテル	高岡会長、危機管理、神村学園監督
2月 3日	〃	県立奄美図書館	各種別専門講師
2月 7日	指導監査懇談会	県庁会議室	県指導監査に対する提言
2月 7日	会計研修	城山観光ホテル	新会計基準、決算事務、他
2月27日	スピーチコンテスト	県民交流センター	福祉現場からの提言
3月 5日	保育部会研修会	アーバンポートホテル	会計基準、園内研修
3月22日	経営指導連絡協議会	社会福祉センター	事業報告、事業計画(正副会長)
3月22日	役員会	〃	事業報告・決算、事業計画・予算
3月28日	県政報告会	自民党県連会館	前回要望対応及び県議会報告

【これからの経営協の取組み（予定を含む）】

月 日	行事名	場 所	主な内容等
4月24日	九社連経営協役員会	福岡市	決算・予算、事業計画
4月25日	監事会	社会福祉センター	定期監査
4月25日	役員会	〃	総会提案議案
4月25日	協議員会	〃	新役員選任
5月 8日	定期総会	サンロイヤルホテル	事業報告、決算、事業計画、予算
5月 8日	経営者セミナー	〃	(内容、計画)
5月下旬	経営指導連絡協議会	社会福祉センター	事業実績、事業計画(正副会長)
7月	会計研修	鹿児島市内	新会計基準、他